

『沈黙行』

インターネットは、決して主人公にならない。
人は考え、人が動き、
その足跡として発信すべき何かが生まれる。

インターネットはあくまで
人生の小道具なのだ。

PSPED BITS

「ルイ・パスツール」 アルバート・エーデルフェルト

『年金情報流出問題』

年金情報流出問題が連日報道されている。先月のコラムでマイナンバーの課題について触れたところだが、今回の事件は、マイナンバーの信頼性にも疑念を与え、年明けからの制度開始に影響を与えそうだ。

6月1日、日本年金機構は、不正アクセスにより、約125万件の個人情報外部に流出したと発表した。報道によると、今回の事件は、悪意の第三者が年金情報を管理するデータベースシステムに侵入して情報を入手したのではなく、職員が事前にシステムから抜き出して手元のサーバーに保管していた一部のデータを奪われていたようだ。直接データベースシステムに侵入されていたとしたら、被害はこんな件数では済まなかっただろう。

日本年金機構は、消えた年金で騒動になった年金記録問題に対応するため、社会保険庁を廃止し、5年前に発足した特殊法人だ。機構では、個人情報を記録したファイルにはパスワードを設定する規則があったにもかかわらず、今回流出した約55万件を記録したファイルにパスワードは設定されていなかった。

また、最初の不正アクセスがあった5月8日から、今回の事件を発表した6月1日までの間にも杜撰な対応が目立つ。不正アクセスを発見してからしばらくの間、担当係長は問題を上長に報告しておらず、19日になってようやく警視庁に捜査を依頼。その間、機構内で必要な情報が共有されないまま対応を続けていた。

重大事件が発生したときは、速やかにトップに情報を共有し、非常時の危機管理体制に切り替えて対応に当たるのが組織運営の基本だが、報道で徐々に明らかにされてくる実態は、職員のみならず組織的な危機管理意識の問題を映しているように思う。

今回の事件では、標的型メール攻撃という手法が用いられていた。例えば、社長名で「セキュリティ対策について参考情報を入力したからこのサイトを確認しておくように」。などと言って、URLをクリックさせるのである。近年巧妙になるこのような手口に対抗するには、役員の高い意識と組織の規律が必要だ。

超高齢化社会の到来が目前に迫るなか、ITを活用した社会保障関連サービスの効率化は避けて通れない課題なのだから、もっと意識を高くもって取り組まなければならない。



佐谷宣昭 Nobuaki Satani

1972年生まれ。九州大学工学部建築学科卒業。2000年九州大学大学院人間環境学専攻博士課程修了、博士（人間環境学）。翌月起業。株式会社パイドビット社長CEO。明日の豊かな情報生活に貢献したいとの想いから、「情報資産の銀行」の必要性を説く。官公庁や都市銀行、小売業など10,096の事業者向けに情報資産プラットフォーム「スパイラル(R)」を提供中。

株式会社パイドビット
東京都港区赤坂2丁目9番11号
03-5575-6601(代表) <http://www.pi-pe.co.jp/>